

今、イエスが戻って来られる準備をする  
(新約聖書：第一テサロニケ 1 章 8～10 節)

2019.10.21. JD フェラグ牧師

第一テサロニケ 1 章 8 節から 10 節を開いてください。

1 章の終わりまでです。出来ればお立ちになって、  
私が読むのについて来ててください。

座ったままでも大丈夫です。かなり長い間、この箇所を楽しみにしていました。なぜこの  
箇所なのか、

皆さんすぐに分かると思います。パウロは続けて  
このテサロニケの教会へ書き送っています。

8 節から。「主のことばがあなたがたのところから出て、  
マケドニアとアカイアに響き渡っただけでなく、」 「神に対するあなたがたの信仰が、  
あらゆる場所に伝わっています。

そのため、私たちは何も言う必要がありません。」

(1 テサロニケ 1:8) 「人々自身が私たちのことを知らせています。

私たちがどのように

あなたがたに受け入れてもらったか、」 「また、あなたがたがどのように  
偶像から神に立ち返って、  
生けるまことの神に仕えるようになり、」

(1 テサロニケ 1:9) そして、10 節です。私の大好きな部分です。「御子が天から来られ  
るのを

待ち望むようになったかを、知らせているのです。」 「この御子こそ、神が死者の中からよ  
みがえらせた方、

やがて来る御怒りから

私たちを救い出してくださるイエスです。」

(1 テサロニケ 1:10) 祈りましょう。主よ、感謝します。あなたの御言葉を本当に感謝  
し、

今日私たちの前に与えられている

あなたの御言葉のこの箇所を感謝します。主よ、あなたの御言葉の教えに、  
油を注いでください。この真理のあなたの御言葉を

私たちの人生に適応できるように、

祝福してください。主よ、あなたの御言葉の中で、御言葉を通して、

私たちに語って下さるように祈ります。イエスの御名によって、アーメン。どうぞお座り  
ください。私は今日の説教のタイトルを、こう付けました。『今なお、イエスが戻って来  
られる準備をする』 私がこのタイトルを選んだのには、

いくつか理由があります。その最大の理由は、これがテサロニケにいる  
クリスチャンの特徴だと思うからです。具体的に言えば、深刻な苦難や迫害にも関わらず  
に、  
主が戻って来られることへの  
彼らの信仰と心構えです。私にとっての、疑問はこれです。何が、テサロニケのクリスチ  
ャンを、  
堅く立ちつづけさせ、  
主の戻りを期待する姿勢を持ち続けさせたのか。皆さん、知りたいですか？  
私は知りたいです。神の言葉の中で、こういう箇所は、  
皆さんが自分自身に問いかけるべき  
疑問がある箇所です。初めに問われるべき疑問は、なぜ神は、聖書の中で  
この箇所を含めることが必要だと考えたのか？別の言い方をすれば、それは、(聖霊によ  
って)感化されるほどのレベルまで  
上がらなければならなかったし、そして、神が使徒パウロを促して、  
これをこの教会への手紙に書かせるほど十分に  
重要でなければならなかったのです。ところで、思い出してください。これは、パウロが  
書いた一番初めの手紙です。皆さんに理解してもらいたいのは、  
私たちの聖書は、年代順になっていません。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書があ  
り、  
その後に使徒の働きがあります。そして、第一第二コリントがあり、  
ガラテヤ、エペソ、ピリピ、そして  
私たちがついこの前に終わったコロサイがあります。そして、今は第一テサロニケに入り  
ましたね。これは実際に、  
使徒パウロが初めて書いた手紙なのです。ですから、それがここにあるのには、  
理由があるのです。私が信じているその理由とは、神は、彼らがあその時に持っていたもの  
を  
今私たちに持って欲しいからです。そして、私たちの前にあるこの箇所は、私たちに3つ  
の方法を示しています。それは、私たちに携挙のための準備ができ、また、  
ずっと準備ができたままにいるための方法です。あなたは、  
携挙がいつでも起こりえると信じていますか？いつでも起こります。1つ目の方法は8  
節にあります。それは、希望を捨てず、  
主への信仰を失わないことです。私は7節で、パウロが彼らに言ったことに  
強い印象を受けました。それは、彼らがどのようにして  
模範となったかについてです。  
言うならば、ロールモデルです。マケドニアとアカイヤで。  
彼らは非常に模範的だったので、

彼らはこのことで知られるようになりました。彼らはギリシャ半島の地域にいて、このことで知られていました。彼らは、彼らの建物のことで知られたのではありません。

彼らには建物はありませんでした。彼らは「預言アップデート」で知られていたわけではありません。言うてみただけです。彼らは、教会の大きさで知られていたのではありません。彼らは教会の牧師や、牧師が書いた本の事で、知られていたのではありません。牧師がどれだけ有名で、良く知られていたか、ではありません。彼らはそれらの事では、知られていなかったのです。彼らは、彼らの信仰のゆえに、知られていたのです。私たちも信者として、私たちの信仰のゆえに、知られるようにと神に願います。逆境にもかかわらず、迫害にもかかわらず。私にとって聖書の中で最も心地悪い箇所の一つは、

こう言われている箇所です。「イエスキリストにあって、神を敬い生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」

(Ⅱテモテ 3:12) 私はこれを聞きたくありません。

皆さんは聞きたいですか？ これは、人気のあるトピックではありません。今日、講壇で、逆境や迫害、苦痛、苦難について語る牧師を見つけるのが難しいほどです。しかし、逆境や迫害に苦しむことが、まさに、私たちの信仰を成長させ、強めるものとなったら、どうでしょう。仮に、それが唯一の方法であるとするれば、どうでしょう。私たちが神に意識を向けるのは、苦悩の中にいる間だというのが、真理ではないですか？ さらに踏み込んで言えば、私たちが本当に主が戻って来られる事を求めるのは、逆境の中にいる時ですよね？ つまり、物事が上手く行っている時は、流れに任せて逆らいません。しかし、逆境がやって来ると、「おお、主よ…！」これが実際に、2つ目の方法に繋がっていきます。それは9節に見られます。それは、罪から立ち返り、

主へ向くことです。ここでパウロは、その地域に広まっていたすべての報告に言及していて、それは、彼らがどのようにその時代はかなり横行していた偶像礼拝の罪から立ち返ったかというものでした。急いで付け加えますが、今日も偶像礼拝は、形こそ異なれ、盛んに行われています。しかし、明らかに、彼らが偶像礼拝から立ち返り、

まことの生ける神に仕えるようになったという  
知らせが広がっていたのです。なので繰り返しますが、  
私は、「どうやって」「なぜ」という点から、  
これを言い表したいと思います。彼らにこのことをさせたのは  
何だったのか？ 罪から立ち返り、  
主へと向き直る。答えは… 準備はいいですか？ 苦難、迫害、苦悩です。それが彼らを  
主へと立ち返らせ、  
主への信仰を成長させたのです。詩篇 119 篇 67 節 イスラエルの甘美な詩人であるダビデ  
が、  
かなり衝撃的なことを言っています。「苦しみにあう前には、私は迷い出ていました。  
しかし今は…」 「あなたのみことばを守ります。」  
(詩篇 119 篇 67 節) 別の言い方をすれば、その逆境がなければ、  
その苦悩がなければ、その困難がなければ、  
その苦しみがなければ、その試練がなければ、私は迷い出ていただろう。主から離れて  
いただろう。しかし、主に苦難を感謝します。なぜなら、その苦難がなければ、  
私はあなたに、あなたの言葉に  
立ち返っていなかったから。私たちが立ち返るところが  
他にどこかあるのでしょうか？ 今までに、あなたの人生の苦難や試練や苦しみを  
神に感謝したことはありますか？ 数節あとに、ダビデが書いていることを  
聞いてください。「苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。」 「それにより 私  
はあなたのおきてを学びました。」  
(詩篇 119:71) ついて来てください。苦難がすることとは、これです。それは私たちに  
立ち返らせ、  
主と主の言葉へと向きを変えさせるのです。そして私たちが御言葉に浸っていく時に、  
御言葉が、私たちの内に入って来るのです。このようにして、  
信仰が生まれるのではありませんか？ 信仰は聞くことから始まり、  
聞くことは神のことばによるのです。  
(ローマ 10:17) 私がこれから言うことを注意して言いたいのは、  
皆さんに誤解してもらいたくないからです。神にとっての問題は…  
神が困っているというわけではありませんよ。私たちが問題なのです。私が言いたいことが  
分かりますよね？ 神が抱えている私たちの問題は、神は、私たちが神から離れて  
道に迷いやすいという事を知っています。そして、調子が良い時には、  
私たちはもっと、そうなりやすいのです。そこで、これが問題ですが、  
神はどのようにして、  
私たちを神の元へと、  
その御言葉へと返らせるのか？ 私たちが信仰において

成長できるように。なぜなら、信仰がなくては、  
神を喜ばすことは出来ないからです。

(ヘブル 11:6) では、神は何をするのでしょうか？ 神は、ダビデが神に感謝したことをされるのです。神はダビデが「神がなさった事は良かった」と言ったことをされます。それは、彼を苦しめることでした。この教会は苦しめられていました。この教会は迫害されていました。私は以前にも言ったことがあります、もう一度これを言う良い機会だと思います。「もしあなたが教会を成長させたいのなら、教会を迫害しなさい。」先週、実際に私はこれについて考えていました。今日、世界で、教会が最も成長しているのは

どこか、知っていますか？ 世界で最も教会が迫害されているのはどこだと思えますか。私がそう言うのは... 誰かを非難するためではありません。しかし私は、

私たちの問題は、多くの場合、状況が良すぎることだと思うのです。中国へ行って見て下さい。イランへ行って見て下さい。イランですよ。誰に分かったでしょうか？

神ご存知でした。今日世界では、私たちが話している間にも、もしあなたが、イエスの名を口にしたり、

あなたの地下集会に誰かを誘ったりしただけで、あなたは消えるのです。あなたは残りの人生を牢獄で過ごし、

二度と日の光を見ることはありません。ちょっと口にただけで。「それは良いことです。」「苦しみにあったことは、幸せでした。」

(詩篇 119:71) これは真理ではないですか？

同意しますか？ 私たちが最も成長し、最も学ぶ時とは、逆境の中にいる時なのです。その時、神が私たちの注目を得るからです。そして、逆境は私たちがこの世と、

この世のものを握っている手を

強制的に緩めさせる効果があります。この世は私たちの家ではありません。

神は一時のために私たちを造ったのではなく、永遠のために私たちを造られたのです。

「これが神にとってのもう一つの問題だ」と

言えるかもしれません。

神が困っているわけではありませんが、しかし、その問題とは、ここが居心地よすぎでしまうことです。物事が上手く行っている時、私たちは、永遠のことは考えていません。主が戻って来られる事を

考えていないのは確かです。もし、主が戻って来られたとしたら、本当のところは、

私たちには、準備ができていなかったでしょう。私たちは夢中になり過ぎて(caught up)いるんです。

ちなみに、シャレのつもりはありません。

(訳注：caught up to heaven:天に引き上げられる) この人生を気にかけ、

この人生に関心を向けているので、

その時が来て、私たちが天に上げられる時、携拳される時、ギリシャ語では「ハルパゾー」

その時、私たちは準備が出来ていない。これが3つ目の方法で、

私が今日の残りの時間をかけていきたいことです。それは、

「主が来られる時のために、準備をする。」 10節でパウロが言っていることに

注目してください。彼が患難前携拳に言及していると

知っていますか? 「えっと、JD 牧師。あなたは、

患難前携拳に関して、かなり独断的ですよ?」

「はい、そうです。携拳は7年間の患難の前に

起こらなければならないのです。これがパウロが言及していることで、

第一テサロニケの中で、

これにもう一度言及しているのです。第二テサロニケの中では、彼は携拳に関して、

ある程度具体的に書いています。しかし彼は、患難前携拳に言及していて、やがて全世界

にやってくる御怒りから、

イエスが私たちを救い出す時だと言っているのです。私が、いつも大いに楽しむのは、

患難前携拳を信じるクリスチャンについて、

「あなたはただ逃げたいだけ」と言っている

善意的なクリスチャンに対してです。「?!?!」 「なんで?!あなたはそう思わない

の?!」 「キリストを拒否した世界に注がれる御怒りから、

私は救い出されたいです!」 「黙示録の6章から19章まで、

読んだことがありますか?」 「読むべきですよ!」 「その時、そこに居たいですか?」

「私は居たくない。」ここに、簡単に見逃しうることがあります。それは、パウロが使っている

「待つ」という言葉と関係があります。「御子が天から来られるのを

待ち望むようになったかを…」

(第一テサロニケ 1:10a) 「やがて来る御怒りから

私たちを救い出してくださるイエスです。」

(第一テサロニケ 1:10b) 問題は、これが次のことを示唆することです。私たちはただ、待たなければいけない。そして、ぼーっとして座り、

主の帰りをただ待つ。パウロはそうは言っていません。パウロが言っているのは、私たちが待つ間に、

準備をするべきだということです。それは、大きな期待をもって、準備をすることです。

これについて、あるコメンテーターの表現の仕方が

私は好きです。「イエスが戻ってくるのを待ち望むという考えは、」 「無気力を意味する

のではない。」 「むしろ、その考えは妊娠している女性についての概念を伴っている。」 「その女性は、生まれてくる赤ん坊の為に、

自分自身も準備をする。」 「そして…」 福音書の中でも、書簡の中でも、新約聖書の中で、イエスが戻ってこられることを、

女性が、生まれてくる赤ん坊の為に

準備をすることに比べた例示において、 女性は何をしていますか？

ただ座っていたりしませんよ。確かに、妊娠9か月の時はそうですが…、しかし、彼女は子供部屋の準備をしています。彼女自身を準備しています。大きな期待をもって、彼女は準備をするでしょう。これが、パウロが言っていることなのです。これが、イエスが来られるまで、

神のことで忙しくすることによって、

働いていることがとても重要な理由なのです。ところで、それは… 時間がたつのを早めてくれます。考えてみて下さい。私がただ待っている時…

ああ、私は待つのが大嫌いです。私は大嫌いで… 時計を… 「分かった、待ちます…」

時計を見て… 一分しか経っていない…。私はもう少し待って、

どうかもっと時間が過ぎているようにと思い、

時計をもう一度見ると… さらに一分過ぎていただけで… それは、15分も待ったようで、30分も、1時間も待ったようなのです。あの言い回しは何でしたっけ？完全に言い損ないますよ。だから私はメモを用意してるんですよ。「待つ身は長い」

(ポットを見つめても、沸騰はしない。) ああ、主よ感謝します…。そうですね？あなたがみつめていて、ただ待っているだけなら、

それは永遠のように感じられるのです。逆にして考えてみましょう。また逆に、「楽しい時間はあっという間に過ぎる」

と言いますよね？そうですね？私が何を言おうとしているか、分かりますか？あなたが忙しくしている時は、

時間はあっという間に過ぎるのです。「ああ、もうこんな時間?! あらまあ。

時間を見て!」

今は時間を見ないで下さいよ…。「もうこんな時間か?!」 「私は神のことで忙しくしていたから…」 私はこれについて独断的ではありませんが、

確かに、疑問に思うんです。ペテロが何と言っているか、知ってますか。私たちは主の来られるのを早めることができる。

(第二ペテロ 3:12) コメンテーター達は、

これについて、いろんな立場をとっていますが、ペテロが言っているのは

こういう事だろうかと思うのですが、「私達が、神のことで忙しくなればなるほど、

時間が過ぎるのが早くなり、

イエスが来られるのを早めることになる。」一方で、もし私達が、ただ主が来られるのを待っているだけなら？ 時間はただただ、たんと、延々と続いていくのです。私は、この質問で締めくくりたいと思います。私の今の生き方は、それ（携挙）が今から10年先のことでない場合に用意するのと同じくらい、用意ができているような生き方だろうか。皆さんの何人かは「10年?! 冗談でしょ? 耐えられない!」という顔で、私を見てますね。「私たちにはあと10年もあると思うんですか?」一分かりません。その日、その時は誰も知りません。しかし、私が知っているのはこれです。私達は準備していなければいけない。そして準備をするとは、ただ何もせずに見ているのではなく、何もせずに、時間をゆっくりと過ぎさせるものではありません。それは違います。それは、こういう意味で待つことです。「赤ちゃんが生まれてくるから、忙しくしないと。」とでも言う感じです。イエスが戻って来られます。イエスは、すぐに戻って来られるのです。私には準備ができている必要があります。以前にお話しした事がありますが、私の妻と私は、10年間子どもが出来ませんでした。医者たちは、不可解で、原因不明の不妊症だと言っていました。私の妻は妊娠しましたが、流産しました。一人は妊娠中期でした。とても苦痛で、とても辛かったです。10年間です。そして、妻が長男を妊娠した時、私達は、準備をし始めたのです。本当に、そうしたことは良かったです。私達が準備したことの一つは… 子ども部屋です。すごいと思いませんか。子どもが生まれる前は、あなたは完璧な親ですね。子どもが生まれると、あなたは自分の救いに疑問を持ち始めます。自分の聖化に疑問を持つのは確かです。とにかく、私たちは子ども部屋を用意しました。その興奮と、期待! 私はそれと同じ興奮と期待を持ちたいのです。なぜなら、主が戻って来られるからです。そして、最後にもう一つ。主がまだ戻って来られていないからと言って、それが、主はすぐには戻って来られないということにはなりません。「ああ。今頃にはもう主は戻って来られているはずだと思ったのに」と思えるかもしれません。主が戻って来られなくて良かったと思いませんか。私はこのことについても考えていました。さらに何人の人たちが、イエス・キリストにある救いに預かったのでしょうか。前回、あなたが確実に主は戻って来られると思った時以来。私は1982年に救われました。イエスが1981年に戻って来られなくて、本当に良かったです。ちょっと時間を差し上げますね。それは1年前ですから。81年そして82年。



私は救われていませんでした。

用意ができていませんでした。あなたがあなたの人生をキリストに

差し出した時のことを考えてください。もしも、主がそれよりも先に戻って来られていたら、

どうでしょう。あなたは取り残されていたでしょう。私の望みと、私の祈りは、これらのテサロニケ人たちへの手紙についての学びが教会として私たちの内に、私たちが主が戻って来られるのに備えて

準備をするに連れ、興奮と期待を

呼び起こすことです。また、私が望み、祈っていることは、これらの書簡が私たちの内に、自分の人生の優先事項や、自分の生き方を再考し、

再検討したいという願望を吹き込むことです。もしかすると、それらは私たちが神の業に忙しくなるために

必要なものとなれるかもしれません。祈りましょう。主よ。感謝します。主よ。私たちはこう言われる人たちのうちに

数えられたいと思っています。彼らはすべて準備をした。彼らには用意ができていた。彼らは動じなかった。彼らは最後まで忠実だった。私たちが、また、次の言葉を聞く者たちのうちに

数えられるためです。「よくやった。」「良い忠実な僕よ。」「一緒に喜んでくれ。」待ち切れません。主よ。感謝します。イエスの御名によって。アーメン